

## 「立ち上がる農山漁村」選定事例概要

取組分野：【交流】

1. 都道府県、市町村 栃木県茂木町<sup>もてぎまち</sup>
2. 事業者名 竹原郷づくり協議会
3. 取組みの名称 新やすらぎ空間「かぐや姫の郷」
4. 取組概要等

### 概要

少子高齢化や過疎化が進む地域を活性化することを目的に、平成15年4月に「竹原郷づくり協議会」を設立し、地域観光スポットの掘り起こしとして、竹林に囲まれ雨の降ったときにしか見ることのできない「坪淵の滝」周辺の遊歩道や防護策の整備を集落全員で行った。

平成16年からは、棚田と竹林保全のためのオーナー制度をスタートし、稲作体験、ホテル鑑賞会、たけのこ掘り、竹林間伐などの体験メニューを提供することで農村女性や高齢者の知識とノウハウを活用する新たな場を創出すると同時に、現在では登録オーナー数も22組に増え、都市との活発な交流は地域の活性化に大きく寄与している。また、古くからの地域資源である竹を活用し、乾燥たけのこ、竹炭、門松などの加工品づくりにも取り組み、竹灯籠を愛知万博に出展するなど各種イベントへも積極的に参加している。

平成18年には、竹林の中の「坪淵の滝」での長さ70mの流しそうめん、夜間の竹灯籠によるライトアップなど地元の竹を活かしたイベントの開催により、多くの観光客を集めている。

なお、継続的な里山保全活動、農村景観づくりが認められ、平成17年度には農林水産省「美の里づくりコンクール」審査員特別賞を受賞した。

### 活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
生産量			150	250	400
解説	単位：袋 乾燥たけのこ				
生産量			100	250	300
解説	単位：個 竹炭				
イベント回数		2	11	21	25
解説	単位：回 里山整備、オーナー制度、お祭りなど				
イベント参加者		70	600	1,470	1,660
解説	単位：人 里山整備、オーナー制度、お祭りなど				
オーナー数			14	17	22
解説	単位：組 竹林と棚田のオーナー				

### 活用している地域資源

- ・里山：集落の里山を活用し、竹林や檜の間伐ボランティアを募集。
- ・棚田：集落の棚田を活用し、棚田のオーナー制度を開始。
- ・坪淵の滝：集落の坪淵の滝を活用し、新名所として整備。多くの観光客が来るようになった。
- ・竹：集落の竹を活用し、乾燥たけのこや竹炭などに加工販売を開始。
- ・空家：集落中心にある古民家を活用し、ボランティア受入態勢の強化や、宿泊しながら長期的に活動ができる施設に整備中。

### 地域活性化のポイント

農村景観保全活動として、集落内の農地や水路、農道等を集落ぐるみで草刈等の管理作業を行っている。加えて、都市住民を対象にしたボランティアを募集して、年5回程度、毎回30名のボランティアが竹林、里山の保全活動を展開することにより、良好で美しい農村景観が保たれている。

「かぐや姫の郷」の郷人(オーナー)の取組として、棚田での稲作体験をはじめ、都市農村交流事業としてたけのこ掘り体験や、ホテル鑑賞会などを様々な交流事業を行うことにより、耕作放棄地の解消と新たな農村女性や高齢者の活躍の場になっている。当初14組だったオーナーも平成18年度は22組まで増え、会費でオーナー制度を運営できるまでになった。

また、竹とんぼ作り教室や竹ご飯体験、竹炭焼き体験など、地域の資源を活用したグリーン・ツーリズムを、独自に展開できるようになった。

### 事業の今後の展開方向

ボランティアによる竹林、里山保全活動をさらに活発化させ、竹原全体が、いつまでも美しい景観を留めるよう努めていく。

竹林と棚田のオーナー制度については、新たに耕作放棄地の復旧を行い募集拡大するとともに、本町各地で行われているむらづくりとの連携により、交流人口の増加を図っていく。

平成15年度に植栽した80a、1,900本のブルーベリーが、平成19年度には摘み取りができるようになるため、摘み取り体験農園や、ブルーベリーを利用したジャムやかき氷などの加工品開発にも取組むことにより、新たな農村女性や高齢者の活躍の場を提供していく。

集落の中心にある古民家を、地域資源である竹を有効活用し現在修繕を行っている。この施設を利用し、長期的な滞在型農業体験や直売所、農村レストランなどを行い、協議会の活動状況やオーナー制度の募集、加工品販売も推進し、広く竹原を宣伝していく。

併せて、これからも継続的に活動を行っていくため、後継者の育成にも努めていく。

